

# 初動態勢や連携検証

## 原子力防災訓練

# 6町、200人が参加

## 臨界事故 対象を拡大して実施

「福島第二原発2号機で原子炉がスクラム(停止)」。三日から三日間の日程で始まった県原子力防災訓練は、東京電力・福島第二原発(楡葉、富岡町)で異常事故が発生したという想定のもと、二年ぶりに実施された。本年度は、昨年十一月に訓練を実施する予定だったが、茨城県東海村で発生した臨界被ばく事故の影響で訓練内容を見直し、この時期の実施となった。訓練初日は、臨界被ばく事故の教訓から初動態勢、関係機関への連絡通信の在り方が検証され、前回より作業のスピードアップに重点を置いた訓練が繰り広げられた。



緊急時環境放射線モニタリング研修会で放射線測定機材をチェックする出席者

原子力防災訓練は、県と訓練に比べ三倍増の百五十原発立地関係六町(浪江、大熊、双葉、楡葉、富岡、広野)が二年に一度、福島第一、同第二原発で交互に行っている。本年度は、臨界被ばく事故の教訓を踏まえ、これまで対象となっていた参加地域を原発から半径十キロ以内の重点地域(関係六町)に拡大したほか、原発事故発生時の初動態勢の迅速化、円滑な情報収集・提供などテーマを絞った内容に改めた。

参加協力機関も二年前の訓練に比べ三倍増の百五十機関・団体、参加者は約五百人増の二千人と大規模な訓練とした。

訓練は、福島第二原発2号機で冷却系に異常が発生し、原子炉が停止。排気筒から放射性物質が敷地外に放出されたという想定。初動態勢の訓練では、事故発生を受けて福島第二原発内に緊急時対策本部が設けられ、東電職員がホットラインを使って国や県、原発立地町など関係機関十カ所に緊急時通報を実施。事業所から通報を受けた県業者から県庁内に災害対応本部を立ち上げた。

同時に、国へ専門家の派遣を要請、県原子力センター(大熊町)内に現地対策本部を設置し、防護対策、住民避難のための輸送手段の確保など初動態勢の流れが確認された。

楡葉、富岡の両町も役場内に災害対策本部を設置。避難所設置の準備や生活必需品の確保、立ち入り制限の指示など事故時の対応に即した訓練が行われた。

ファクシミリ未着も通常訓練での訓練通信訓練では、関係機関

大熊町下野上の県原子力センターでは、小林英雄所長をはじめ職員七人が発電所や関係機関との連絡通報訓練に取り組んだ。発電所からの第一報が入ると、小林所長の指示ですみややかに緊急時モニタリング体制を

### モニタリング 真剣に研修会

県原子力センター

訓練の準備を先了させた。訓練に取り組んでいた。担当職員が発電所からの訓練基本想定の情報をもとに、最新のテレメータシステムによる監視体制を手チェックしたり、パソコンのディスプレイ画面に表示された環境放射線データを

午後からは県の関係機関や原発立地四町と隣接する浪江町の原子力防衛をチェクしたり、防護服を着用した。今回から新たに陸上サ

や重点地域以外の市町村へこのうち、ファクシミリ

の送信訓練では、通常の回線を使った地元住民へのため、防災関係の機関にファクシミリが届かない場面も見られた。

# 中性子線測定や避難



避難所で放射線量の測定検査を受ける住民  
4日午前10時40分、榑葉町保健福祉会館

## 県原子力防災訓練の最終日

### 住民参加、実践的に

県原子力防災訓練最終日は四日、東京電力・福島第二原子力発電所が立地する富岡、榑葉両町などで行われ、地域住民による避難訓練、緊急時医療、環境モニタリングなど緊急時対応にそくした訓練が繰り広げられた。福島第二原発2号機で冷却系に異常が発生し、原子炉が停止、排気筒から放射性物質が敷地に放出されたという想定で、百五十機関・団体、約千人が参加して行われた。

榑葉町の大和田昭夫さん(五〇)は「(原発)事故はなれ、緊急時医療、環境モニタリングなど緊急時対応にそくした訓練が繰り広げられた。福島第二原発2号機で冷却系に異常が発生し、原子炉が停止、排気筒から放射性物質が敷地に放出されたという想定で、百五十機関・団体、約千人が参加して行われた。」

榑葉町の大和田昭夫さん(五〇)は「(原発)事故はなれ、緊急時医療、環境モニタリングなど緊急時対応にそくした訓練が繰り広げられた。福島第二原発2号機で冷却系に異常が発生し、原子炉が停止、排気筒から放射性物質が敷地に放出されたという想定で、百五十機関・団体、約千人が参加して行われた。」

榑葉町の大和田昭夫さん(五〇)は「(原発)事故はなれ、緊急時医療、環境モニタリングなど緊急時対応にそくした訓練が繰り広げられた。福島第二原発2号機で冷却系に異常が発生し、原子炉が停止、排気筒から放射性物質が敷地に放出されたという想定で、百五十機関・団体、約千人が参加して行われた。」

榑葉町の大和田昭夫さん(五〇)は「(原発)事故はなれ、緊急時医療、環境モニタリングなど緊急時対応にそくした訓練が繰り広げられた。福島第二原発2号機で冷却系に異常が発生し、原子炉が停止、排気筒から放射性物質が敷地に放出されたという想定で、百五十機関・団体、約千人が参加して行われた。」

榑葉町の大和田昭夫さん(五〇)は「(原発)事故はなれ、緊急時医療、環境モニタリングなど緊急時対応にそくした訓練が繰り広げられた。福島第二原発2号機で冷却系に異常が発生し、原子炉が停止、排気筒から放射性物質が敷地に放出されたという想定で、百五十機関・団体、約千人が参加して行われた。」

#### 住民「避難時の流れ分かった」

榑葉町の大和田昭夫さん(五〇)は「(原発)事故はなれ、緊急時医療、環境モニタリングなど緊急時対応にそくした訓練が繰り広げられた。福島第二原発2号機で冷却系に異常が発生し、原子炉が停止、排気筒から放射性物質が敷地に放出されたという想定で、百五十機関・団体、約千人が参加して行われた。」

榑葉町の大和田昭夫さん(五〇)は「(原発)事故はなれ、緊急時医療、環境モニタリングなど緊急時対応にそくした訓練が繰り広げられた。福島第二原発2号機で冷却系に異常が発生し、原子炉が停止、排気筒から放射性物質が敷地に放出されたという想定で、百五十機関・団体、約千人が参加して行われた。」

榑葉町の大和田昭夫さん(五〇)は「(原発)事故はなれ、緊急時医療、環境モニタリングなど緊急時対応にそくした訓練が繰り広げられた。福島第二原発2号機で冷却系に異常が発生し、原子炉が停止、排気筒から放射性物質が敷地に放出されたという想定で、百五十機関・団体、約千人が参加して行われた。」

### 情報収集し課題指摘

#### 現地本部会議を2回招集

現地災害対策本部が設置された大熊町の県原子力センター内では、本部長の川手晃副知事の指揮の下、科学技術庁、資源エネルギー庁など国の専門家のほか、警察や消防、自衛隊、海上保安庁など関係機関の代表が出席し、現地本部会議を

現地災害対策本部が設置された大熊町の県原子力センター内では、本部長の川手晃副知事の指揮の下、科学技術庁、資源エネルギー庁など国の専門家のほか、警察や消防、自衛隊、海上保安庁など関係機関の代表が出席し、現地本部会議を

現地災害対策本部が設置された大熊町の県原子力センター内では、本部長の川手晃副知事の指揮の下、科学技術庁、資源エネルギー庁など国の専門家のほか、警察や消防、自衛隊、海上保安庁など関係機関の代表が出席し、現地本部会議を

現地災害対策本部が設置された大熊町の県原子力センター内では、本部長の川手晃副知事の指揮の下、科学技術庁、資源エネルギー庁など国の専門家のほか、警察や消防、自衛隊、海上保安庁など関係機関の代表が出席し、現地本部会議を

現地災害対策本部が設置された大熊町の県原子力センター内では、本部長の川手晃副知事の指揮の下、科学技術庁、資源エネルギー庁など国の専門家のほか、警察や消防、自衛隊、海上保安庁など関係機関の代表が出席し、現地本部会議を

現地災害対策本部が設置された大熊町の県原子力センター内では、本部長の川手晃副知事の指揮の下、科学技術庁、資源エネルギー庁など国の専門家のほか、警察や消防、自衛隊、海上保安庁など関係機関の代表が出席し、現地本部会議を